

MR（麻しん風疹混合）ワクチン2期は早めに打ちましょう。

2017.06.14

2015年に日本はWHOから麻しん排除宣言を受けました。これは、MRワクチンが2回、接種率95%以上がお父さんお母さんの努力の結果でなされたためです。しかし、国内からの麻疹の発生はほとんどなくなりましたが、海外から持ち込まれる麻疹の流行が相次いでおります。

昨年8月に関西空港から広がった麻しんの流行は関西空港関係者で33名の感染者を出しました。平成28年では最終的に161名の麻疹の報告がありました。持ち込まれた麻しん発端者の渡航先は東南アジアがほとんどで、2回の麻しんワクチン（MRワクチンを含む）を打って発症した人は15%程度だということがわかっております。

今年になっても5月28日までの段階で165名の麻しんが報告されております。現在は流行が続いているところはありませんが、これまでに10以上の報告がみられる都道府県は、山形、東京、三重、広島となっております。

昨年の流行時にはMRワクチンの入荷が一時的に制限され、1歳台でのワクチンを優先させざるを得ませんでした。

MRワクチン2期は、来年小学校に入学するお子さん、つまり年長さんに行うとされており、6歳になってから行うというものではありません。まだ、接種を行っていない年長さんは、出来るだけ早期にワクチンを受けるようにしてください。日本脳炎のワクチンの連絡がきているお子さんはMRワクチンとの同時接種も可能ですので、併せて行ってください。

今年の夏休みに東南アジア方面に旅行を計画されている大人の方も、麻しんに罹ったことが明らかか、麻しんワクチンを2回接種している人以外は、渡航前に麻しんワクチン単独か、MRワクチンを打つことをお勧めしております。ひとりひとりの方が、麻しんに対して強い警戒感を持っていないと、1000人にひとりといわれる麻疹での死亡を防ぐことができません。小さな命を守るためにも、格段の注意が必要です。